

Topics:

－特集－

漫湖水鳥・湿地センター
開館10周年記念



Topic1:

人と生きものと湿地をつなぐ場所。

漫湖水鳥・湿地センターがオープンした日

Topic2:

2003年を振り返る。

オープン初年度のセンターの様子を紹介

Topic3:

10年前と現在、^{いま}漫湖のマングローブは？

漫湖のマングローブの移り変わりを写真で見る

Topic4:

おりがみでつなぐ、地球のいのち。

5月に開催された開館10周年記念イベントの様子



とよみ小学校によるリコーダー演奏

人と生きものと湿地をつなぐ場所。

平成15年(2003年)5月16日、人と生きもの、そして湿地をつなぐ場所として「漫湖水鳥・湿地センター」は開館しました。センターに残っていた開所式の写真を見てびっくり。そこには、想像以上に盛大なセレモニーが行われている様子が写っていました。

写真を見てみると、開所式当日は、環境省や豊見城市、那覇市の両市長をはじめ、多くの関係者やセンター職員、そして地元の方々がたくさん写っています。約150名にも及ぶ招待客は、センターの開館を祝福するために駆けつけてくれました。式典を彩る地元とよみ小学校の児童によるリコーダー演奏や琉球舞踊は、開館を迎えた当時の盛り上りを伝えています。テーブルカットの写真も、芝生がまだ生え揃ってなくて何だか新鮮です。この日から、漫湖水鳥・湿地センターの歴史は始まったのです。



琉球舞踊は祝いの席に欠かせません



いよいよテーブルカットの瞬間です

2003 年を振り返る。

「漫湖水鳥・湿地センター開館10周年」ということで、過去の写真を振り返ってみると、当時の観察会の様子や施設の移り変わりなど、色々な発見があってとても興味深いです。特に開館した初めの年の記録からは、全てが手さぐりの中、職員一丸となって奮闘している様子が伝わってきます。今回は、その2003年にタイムスリップして、開館当時のセンターの様子を少しだけ皆さんにご紹介したいと思います。

開所式翌日の17日から一般開放となったセンター。その記念すべき第一号の来館者は、なんと神奈川県からお越しの方でした。その後、地元の方々や地域の学校で賑わいを見せる中、7月には「漫湖水鳥・湿地センターたより」を創刊しています。そして観察会や講座で慌ただしい夏休みが過ぎると、休む間もなく9月には鈴木環境大臣(当時)の来訪。秋になると、初めての野鳥観察会を行っています。その後、12月にはオープン記念と題し、世界的に有名なナチュラルリスト、CWニコルさんを招待しての講演会。そして、センターの伝統行事となった「漫湖絵画コンクール」も開催されています。もちろんこれはほんの一部ですが、オープン当初の慌ただしさの中、一つ一つ新しいことにチャレンジし、運営の基礎を積み上げていくことの大変さは、今でも簡単に想像ができます。この時積み上げた基礎がしっかりしていたからこそ、10年経った今も、漫湖水鳥・湿地センターはたくさんの人に支えられ日々前進できているのだと思います。

「初心忘るべからず」。この言葉をもう一度しっかりと噛みしめ、これからまた10年、漫湖水鳥・湿地センターは少しずつ、その歴史を皆さんと一緒に積み上げていきます。



上段：はじめての野鳥観察会。この時の観察会ではどんな野鳥が観察できたのでしょうか？／中段左：鈴木環境大臣(当時)の来訪。2F展望室から望遠鏡で野鳥観察をしています。／中段右上：今月号で105号となる「漫湖水鳥・湿地センターたより」の創刊。／中段右下：CWニコルさんの講演会。どんなお話だったのかすごく興味があります。／下段：「第一回漫湖絵画コンクール」の表彰式の様子。オープン当時は豊見城市中央公民館で作品展と表彰式が行われていました。

10年前と現在、漫湖のマングローブは？

センターで撮った漫湖のマングローブ写真を調べてみると、開館して3年経った2006年まで遡ることができました。これは豊見城城址の前に広がるマングローブを写したものです。1991年に、漫湖で大規模なマングローブの植樹が行われるまでは、この一帯も渡り鳥の貴重な餌場となる干潟が広がっていました。写真手前の部分にわずかに干潟の部分が見えています。

この頃には豊見城城址の前は一面マングローブに覆われています。写真には写っていませんが、マングローブの拡大は、豊見城城址北側を通るとよみ大橋の架橋を越えた所にまで広がっていました。植樹して20年も経っていないことを考えると、拡大のスピードはかなり速い印象を受けます。その後、2010年から国の保全事業が始まり、マングローブの伐採が行われました。

2010年～2012年 マングローブの伐採

伐採直後の様子です。緑の絨毯のように豊見城城址の前に広がっていたマングローブは、ほとんど無くなりました。元々マングローブ林で覆われていた所は干潟が露出し、写真半分くらいの部分まで水が入ってきているのが分かります。ただ、奥のほうは少し高いのか乾燥しているのが分かります。手前に伸びる水の流れは、元々の漆筋に添って重機で少し掘って造った流れです。

伐採1年後、写真右側の切り株からは葉が出はじめマングローブが復活しているのが分かります。ポツポツとブロックリミたいに見えます。まだ、写真手前と左側にはその傾向は見られませんが、伐採の時にできた作業の痕跡が、多少均されてフラットになった印象を受けます。右斜め後方には水の流れが微かに残っています。これから10年先、漫湖のマングローブはどのような姿に変わっていくのでしょうか？





おりがみでつなぐ、地球のいのち。

5月16日(日)、漫湖水鳥・湿地センターでは、開館10周年を記念して「おりがみアクション - 巨大おりがみでクロツラヘラサギを折ろう-」と、写真展「漫湖の野鳥」を開催しました。

「おりがみアクション」は、2010年に名古屋で開催されたCOP10をきっかけに、「おりがみを折りながら、地球のことや生物多様性について考える時間をみんなで共有すること」を目的に、全国各地で展開されている生物多様性についての普及啓発活動の一つです。今回は、生きものを折ったおりがみに10周年のお祝いコメントや未来の漫湖へのメッセージを書いてもらい、みんなの想いをボードにつないだほか、来館者と一緒に漫湖のシンボルボードであるクロツラヘラサギを巨大おりがみで折りました。

そのほか、写真展「漫湖の野鳥」では、センター職員が日頃撮りためた漫湖の野鳥約50種の普段見ることのできない貴重な姿を、季節ごとに分類して紹介しました。



■ 2013.4/1 — 2013.4/30

{ 漫湖で確認された野鳥 …………… 計 43 種 }

漫湖寄鳥見鳥

4/13



雅やか、ダイサギ春の装い。

ダイサギの身のこなしはゆったりしていて、見ていてとても優雅に見える。獲物を捕る時でさえ、狙いを定め静止した状態から、一瞬で首を伸ばし獲物を捕らえる。その動作には無駄や隙がなく、日本の武道を思い起こさせるような洗練された動きだ。特に繁殖期を迎える春は、飾り羽によってより一層雅やかな印象を受ける。ダイサギは冬鳥ではあるが、一年中漫湖で観察することができる。ただ、みの笠状の綺麗な飾り羽は、この時期にしか観察できない。つまり、「いつ見るの?」「今でしょ!」…このフレーズも、飾り羽と同様、冬には完全に消えているだろう。

漫湖で確認された鳥類一覧

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. キンクロハジロ | 26. カワセミ |
| 2. スズガモ | 27. ハヤブサ |
| 3. キジバト | 28. シジュウカラ |
| 4. ゴイサギ | 29. ツバメ |
| 5. ササゴイ | 30. リュウキュウツバメ |
| 6. アオサギ | 31. シロガシラ |
| 7. ダイサギ | 32. ヒヨドリ |
| 8. チュウサギ | 33. ウグイス |
| 9. コサギ | 34. キマユムシクイ |
| 10. クロツラヘラサギ | 35. メジロ |
| 11. バン | 36. セッカ |
| 12. オオバン | 37. シロハラ |
| 13. ムナグロ | 38. イソヒヨドリ |
| 14. ダイゼン | 39. スズメ |
| 15. セイタカシギ | 40. キセキレイ |
| 16. タシギ | 41. アオジ |
| 17. チュウジャクシギ | 42. カワラバト(ドバト)※ |
| 18. ホウロクシギ | 43. シマキンバラ※ |
| 19. アカアシシギ | 44. |
| 20. コアオアシシギ | 45. ※は外来種 |
| 21. アオアシシギ | 46. |
| 22. キアシシギ | 47. |
| 23. イソシギ | 48. |
| 24. ミサゴ | 49. |
| 25. サシバ | 50. |

※この観察記録は、毎月実施されている鳥獣保護区の定点カウントの記録と、センターでの観察記録を基にまとめたものです。

■ 2013.5/1 — 2013.5/31

{ 漫湖で確認された野鳥 …………… 計 31 種 }

漫湖寄鳥見鳥

5/3



オグロシギの夏羽に会う。

はじめてオグロシギに出会った。
2羽いたうち1羽はすでに夏羽に完全換羽してとても綺麗だった。
バードウォッチングの醍醐味は何と言っても、未だ見ぬ野鳥に出会えた瞬間のあの興奮と感動だろう。しかも都会のど真ん中でそれを味わえるのだから、やはり漫湖は素晴らしい場所である。オグロシギは旅鳥として春季と秋季に少数が飛来する。当センターが開館した2003年には、それまでの記録では最高となる12羽を観察しているが、ここ数年は平均して2〜3羽程度が飛来するに留まっている。

漫湖で確認された鳥類一覧

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. キジバト | 26. ヒヨドリ |
| 2. ゴイサギ | 27. メジロ |
| 3. アマサギ | 28. イソヒヨドリ |
| 4. アオサギ | 29. スズメ |
| 5. ダイサギ | 30. カワラバト※ |
| 6. チュウサギ | 31. シマキンパラ※ |
| 7. コサギ | 32. |
| 8. クロツラヘラサギ | 33. ※は外来種 |
| 9. オオバン | 34. |
| 10. ムナグロ | 35. |
| 11. セイタカシギ | 36. |
| 12. オグロシギ | 37. |
| 13. チュウシャクシギ | 38. |
| 14. アカアシシギ | 39. |
| 15. アオアシシギ | 40. |
| 16. キアシシギ | 41. |
| 17. イソシギ | 42. |
| 18. コアジサシ | 43. |
| 19. クロハラアジサシ | 44. |
| 20. ミサゴ | 45. |
| 21. ツミ | 46. |
| 22. カワセミ | 47. |
| 23. ハシブトガラス | 48. |
| 24. リュウキュウツバメ | 49. |
| 25. シロガシラ | 50. |

※この観察記録は、毎月実施されている鳥獣保護区の定点カウントの記録と、センターでの観察記録を基にまとめたものです。

7
Jul

{ 7月に予定されているセンターのイベント情報や、
その他のお知らせについてご案内します。 }

夏休み期間中の休館日について

昨年度から、漫湖水鳥・湿地センターは夏休み期間中、休館日を設けずに毎日開館しています。

- 夏休み期間：2013年7月20日(土)～8月31日(土)まで ※台風等による臨時休館などを除く。

夏休みスペシャルプログラム「漫湖自然学校」が今年も開校します!!

- 期間：2013年7月20日(土)～8月25日(日)
- 場所：漫湖水鳥・湿地センター

「漫湖自然学校」7月のご案内

観察会：「水の中のいきものたち」7月20日(土) 10:00-12:00

「月夜とカニの観察会」7月23日(火) 18:00-20:00

研究室：「ゼミ博士の部屋」7月27日(土) 10:00-12:00

「漫湖の水しらべ隊」7月28日(日) ①10:00-12:00 ②14:00-16:00

大人の自由研究:「樹脂標本づくり」7月26日(金) 18:00-20:00

※各イベントの予約お申し込みは、開催日の二週間前から行います。

※「漫湖自然学校」8月のイベント情報や詳しい内容は、電話でのお問い合わせか、
またはセンターホームページをご覧ください。

「第4回沖縄県子ども環境会議」の開催について。

「沖縄県子ども環境会議」は、参加することもたちの学年や参加地域など、回を重ねるごとに大きくなっています。4回目を迎える今年も子どもたちの熱い想いが交差します。

※なお、「沖縄県子ども環境会議」開催期間中も、漫湖水鳥・湿地センターは通常通り開館致します。

会議参加者による混雑が予想されますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

- 日 時：2013年7月13日(土)～14日(日)
- 会 場：漫湖水鳥・湿地センター